

1 水に関する歴史風土と水文化の継承

現状と課題

- ▶ 高度経済成長時代に社会構造や都市機能、環境が大きく変化し、地域社会と水との関わりが希薄となり、地域で受け継がれてきた固有の水文化が忘れられつつある。
- ▶ 水との多様な関わり喪失は、日常生活を味気ないものとし、本県固有の水文化を失うことにもつながりかねない。

施策の基本方向

水文化の良さや大切さを見直し、地域で育まれた水文化の保全を図り、次世代に継承し発展させていく。

さまざまな水文化を次世代に継承するため、県内に点在する水関連施設と連携を図るなど市町村や関係機関・団体との連携を強化する。

施策の推進方向

（1）治水・利水文化の継承

- ① 治水・利水技術の紹介・継承：急流河川工法、合口用水、電源開発等
 - ▶ 富山県の特徴である急流河川工法や合口用水、電源開発等の治水、利水システムについて、県民に広く紹介するとともに情報のネットワーク化を図る。
- ② 水防工法の継承：木流し※、川倉※、竹蛇かご等
 - ▶ 伝統的水防工法は、長年にわたる人々と水との闘いの経験則を積み重ねた中から生まれてきた水文化であり、伝統的な木流し、川倉、竹蛇かご等の水防工法の継承を図る。
- ③ 水配分方法の継承：番水※、巻江※（十二貫野用水）等
 - ▶ 渇水に備えて、限られた水を極限まで有効に利用する方法や、番水等の水配分の仕組みの継承を図る。

（2）伝統的産業における水文化の継承・発展

- ① 伝統的地場産業の継承・発展：庄川挽物※、菅笠※、チューリップ球根栽培等
 - ▶ 水に関わる伝統的な技法や地場産業等を、地域の財産として評価し、継承・発展させるため、担い手や地場産業の育成に努める。
- ② 伝統的川魚漁の継承：小屋がけオトリ投網漁※、流し網漁※等
 - ▶ 内水面漁業を振興し、神通川におけるサケの小屋がけオトリ投網漁等の伝統的な漁法の継承に努める。
 - ▶ また、魚が住みやすい河川環境の整備やサクラマス等の水産重要魚種の増殖を促進する。

(3) 暮らしの中の水文化の啓発

- ① **日常生活の中での水文化の継承**: 打ち水、水車、食(水にさらしてのあく抜き、そうめん・そば)、和紙、染物 等
- 💧先人が創り上げて来た暮らしの中に生きる身近な水文化の価値を再評価し、継承する。
- ② **子供達への水文化の継承**: ミズガキ*、水の少年団*の育成、地域の祭りの伝承 等
- 💧子供たちの創造力や感性を高める上で重要な役割を果たすことができる、地域に育まれてきた水文化を継承する。
- ③ **新たな水との付き合い方や生活様式の転換**: 雨水(天水)利用、雨水浸透 等
- 💧県民がこれまで享受してきた豊かな水の恩恵を引き続き受け続けることができるよう、雨水(天水)利用や雨水浸透の普及、促進など、水との付き合い方や生活様式を節水型に変えていこうとする意識の啓発を図る。



打ち水大作戦 [滑川市]



水を湛えた散居村(砺波平野)

2 水を活かした産業の振興

現状と課題

- ▶ 本県の豊かで清らかな水は、立山連峰をはじめ、扇状地や散居村など全国に誇る自然景観、名水、湧水などの地域資源を育むとともに、おいしいコシヒカリや富富富などの富山米やお酒などの地場製品の生産に貢献している。
- ▶ 豊富な電力、工業用水などに支えられ、医薬品などの化学、アルミなどの金属、機械・電子部品を中心に、日本海側屈指の工業集積を誇っている。また、平成12年より深層水の商業利用が開始され、深層水関連産業の振興が図られている。
- ▶ 全国名水百選に選ばれた8つの名水や富岩水上ライン、射水市（新湊）の内川地区など「水」に関連する豊かな観光資源に、富山湾の「世界で最も美しい湾クラブ」加盟で新たな魅力が加わったことから、水を活用した観光のさらなる振興が期待される。

施策の基本方向

量・質ともに優れた水を、かけがえのない地域資源、地域の誇りとして捉え、その魅力を県内外にPRし、名水の保全や深層水のさらなる利活用に努める。

恵まれた水を活かし、企業の誘致・産業の振興を図るとともに、水の魅力を活かした観光の振興を図る。

施策の推進方向

（1）名水の保全と利用

- ▶ 富山の水が持つきれいさ、豊かさ、優れた水環境等を紹介することを目的として選定している「とやまの名水」66件（環境省の名水百選4箇所、平成の名水百選4箇所を含む）を、優良な水環境として守り育て、より価値を高めていくため、インターネットなどにより県内外に積極的にPRする。
- ▶ 飲用されている「とやまの名水」について、健康被害等の発生を防止するため、管理者、市町村と連携して飲用対策・衛生管理対策を講じる。
- ▶ 様々な観光イベント等を活用し、「水の王国とやま」のイメージアップとともに「とやまの名水」のPRを推進し、ミネラルウォーターや水を利用した地場製品等の販売促進を図る。

（2）深層水の利活用

- ▶ 多様な可能性を秘めた深層水の利活用を促進するため、産学官連携による深層水の基礎・利用研究を一層推進するとともに、利用企業の開拓を進め、利用量及び利用商品数の増加を図る。
- ▶ 「富山の深層水」ブランドの確立と利用商品の市場等への普及・浸透を進め、利用商品の販路拡大を支援する。

（3）水を利用した産業の展開

- ▶ ウォータージェット技術など水の特性を活用した新技術の開発や新事業の創出を促進する。
- ▶ 本県の豊富で良質な水を活用した企業の誘致・産業の振興を、水環境との調和を図りながら推進する。

- ▶ 立山連峰で生まれた豊かで清らかな水を利用したお酒やおいしいコシヒカリや富富富などの富山米の生産を推進し、「富山ブランド」として確立する。
- ▶ 魚の生息しやすい河川環境を整備するとともに地場産系アユの放流やサクラマス増殖を進める。

(4) 観光の振興

- ▶ 本県は、黒部峡谷、神通峡、庄川峡といった美しい峡谷や、大小様々な河川、全国の名水百選に選ばれた8つの名水、宇奈月温泉、庄川温泉郷、氷見温泉郷、春日温泉郷などの温泉、そすい疏水百選※(県内で4地区)など、「水」に関連する豊かな観光資源に恵まれている。
- ▶ これらに加え、「立山弥陀ヶ原・大日平」のラムサール条約※みだがほら だいにあだいら湿地登録や、立山連峰における氷河の発見、富山湾の「世界で最も美しい湾クラブ」加盟など、新たな魅力が加えられたほか、北陸新幹線の開業により、交通の便も飛躍的に向上している。
- ▶ 魅力を増した観光資源の保全と効果的な情報発信に努め、水の魅力を活かした観光の振興を図る。
- ▶ 「世界で最も美しい湾クラブ」加盟をきっかけとした、富山湾の眺望を楽しめる沿岸サイクリングコースの充実をはじめ、マリンスポーツの振興、外航クルーズ客船の誘致、マリーナ施設の拡充や他港に停泊する船舶オーナーの誘致などを進め、「海のあるスイス」を目指す富山の観光振興を推進する。
- ▶ 「とやまの名水」にまつわる観光資源の魅力を活用した観光モデルコースづくり及びPRを進める。



いたち川のドンドコ

平成の名水百選：いたち川の水辺と清水



石倉町延命地蔵の水

【富山市】



富山湾から見る立山連峰【高岡市】

写真提供：(公社)とやま観光推進機構



疏水百選：常西合口用水【富山市】

3 水を通じた交流と連携

現状と課題

- ▶ 社会構造や機能、環境が大きく変化し、都市部など下流地域に暮らす人々は、上流に暮らす人々の山を守る努力のおかげで安心した生活がおくれるということを忘れつつある。
- ▶ 農業用排水路は、県内全域を網の目のように流下しており、古くから水のあるところに人が住み、農業が営まれてきたが、高齢化、混住化の進展に伴い、集落機能の低下が懸念されている。
- ▶ 水はどこでつくられてどこから供給されるのかという水循環の意識が、都市に暮らす人々にも、更には農村地域で暮らす人々にとっても希薄化している。

施策の基本方向

水問題に対処するためには、流域における地域や住民の参加と連携が極めて重要であり、水を介した地域の交流、連携の強化、推進を図る。

施策の推進方向

(1) 地域の交流、連携の推進：上下流交流^{*}、都市と農村の交流 等

- ▶ 水問題に適切に対処するためには、流域における地域や住民の参加と連携が極めて重要であるため、ウォーキングイベントなどの都市住民が水に親しむ機会を創出する。
- ▶ 漁業者による森づくり活動や都市住民の森や棚田等を守る活動など、近県も含めた上下流交流や都市と農村の交流を推進する。
- ▶ 豊富で美しい水資源は本県の暮らしの魅力のひとつであることから、この魅力を移住イベントやパンフレット等により県外へ発信することで、本県への移住・交流の促進に繋げる。

(2) ボランティア活動の推進：ボランティア、NPO、NGO 等

- ▶ 水文化は、広大なフィールドに分布しているため、これらを調査、保存し、紹介するためには、県民、団体、企業などのボランティアの協力が必要である。上下流交流や国際交流を進める上でもNPO、NGO等の活動が重要であり、これらの活動を支援する。

(3) 水文化を通しての海外交流：急流河川工法、かんがい技術、らせん水車 等

- ▶ 県民が獲得してきた治水、利水技術や水神信仰、祭り等の底流を流れる精神世界も含め、ハード、ソフト両面にわたる富山の水文化を、環日本海交流の一環として近隣諸国へ発信する。



黒部川扇状地

写真提供：(公社)とやま観光推進機構



共同洗い場※ [黒部市生地]

写真提供：(公社)とやま観光推進機構



水土里探訪ウォーク：円筒分水槽 [魚津市]

4 水環境学習の推進

現状と課題

- ▶ 水に触れる機会が減少し、水利用や水環境の保全に対する関心も薄れてきている。
- ▶ 都市化や地域開発が進められる環境の中で、身近に水と親しむことができる空間が不足している。
- ▶ 地域に住む人々により育まれてきた水文化が、埋もれ途絶えかねない。

施策の基本方向

水に関する学習や観察、体験活動を通して水に対する興味を持ち、水環境の大切さを認識することは、次世代への水文化の継承とともに、豊かな人間形成のためにも、重要なことである。水環境や水文化に関する調査研究を進めるとともに、情報発信に努める必要がある

施策の推進方向

(1) 学習・観察の機会の提供

- ▶ 水辺などでの県民総ぐるみの県土美化推進運動を展開する。
- ▶ 地域や学校、家庭が主体となって、身近にある水辺での活動や、バス等を利用したツアーや体験学習会等を開催し、水に触れる機会の提供に努める。
- ▶ 環境教育等行動計画に基づく総合的な環境教育を推進し、水辺における学習・観察の機会を提供することにより、県民の理解を深め、自発的な環境保全活動への意欲を高めるとともに、環境保全の取組みが広がる組織づくりを進める。
- ▶ 児童、生徒が身近な自然に対して関心を高めるよう、ビオトープ[※]づくりを支援する。
- ▶ 農村独自の地域資源を活かした体験教育を実践できるよう、土地改良施設等の情報提供及び支援を行う。
- ▶ 名水等の水環境や水生生物を保全する地域住民、団体の活動をウェブサイトを活用して情報発信するなど、水環境保全活動への参加を促し、県民の意識の高揚を図る。
- ▶ 消雪設備の節水、名水の保全など、地下水保全に取り組む「地下水の守り人」の養成・支援に取り組む、県民による地域に根ざした活動の推進を図る。

(2) 水環境や水文化に関する調査と情報発信：地域固有の水環境や水文化の調査、

フィールドミュージアム[※]としての水博物館、
田園空間博物館の活動 等

- ▶ 地域に住む人々が水を通して地域を研究し、その成果を情報発信する活動を通して学術振興を図る。また、調査研究において富山大学などとの連携協力を推進する。
- ▶ 様々な分野で所有している水環境・水文化に関する既存の冊子、パンフレット等を把握し、一元的に情報発信できるようにするとともに、必要に応じて副読本などを作成し、小中学生を中心に提供する。
- ▶ 児童や生徒が行っている水環境調査などの情報を積極的に収集、発信し、さらなる活動拡大につなげる。

- 💧水の週間(毎年8月1日～7日)を中心に、国、市町村との連携を強化することにより、啓発活動の全県的な展開を図る。
- 💧豊かな水や歴史・恩恵など幅広い水文化の情報を、国内外に向けて発信する。



「水辺のすこやかさ指標(みずしるべ)」による水辺の調査[高岡市]



海辺の漂着物調査[氷見市]